

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成25年10月15日

**【四半期会計期間】** 第119期第2四半期(自 平成25年6月1日 至 平成25年8月31日)

**【会社名】** 株式会社井筒屋

**【英訳名】** IZUTSUYA CO., LTD.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役 社長執行役員 影 山 英 雄

**【本店の所在の場所】** 北九州市小倉北区船場町1番1号

**【電話番号】** (093)522-3111

**【事務連絡者氏名】** 経理・財務担当 白 石 亮

**【最寄りの連絡場所】** 北九州市小倉北区船場町1番1号

**【電話番号】** (093)522-3111

**【事務連絡者氏名】** 経理・財務担当 白 石 亮

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)  
証券会員制法人福岡証券取引所  
(福岡市中央区天神二丁目14番2号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第118期 第2四半期 連結累計期間	第119期 第2四半期 連結累計期間	第118期
会計期間		自 平成24年3月1日 至 平成24年8月31日	自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日	自 平成24年3月1日 至 平成25年2月28日
売上高	(百万円)	42,462	42,173	87,285
経常利益	(百万円)	1,358	780	2,533
四半期(当期)純利益	(百万円)	997	751	2,179
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	1,000	749	2,179
純資産額	(百万円)	9,077	11,001	10,253
総資産額	(百万円)	69,012	67,955	67,407
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	8.70	6.56	19.01
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	13.2	16.2	15.2
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	2,110	1,872	3,917
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	583	177	758
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,457	652	3,951
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	5,831	6,367	4,969

回次		第118期 第2四半期 連結会計期間	第119期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成24年6月1日 至 平成24年8月31日	自 平成25年6月1日 至 平成25年8月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	4.32	3.05

- (注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。  
3. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在しておりません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行なわれておりません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間(平成25年3月1日～平成25年8月31日)におけるわが国経済は、海外経済の減速等が引き続きわが国の景気を下押しするリスクがある中で、政府の経済対策や日本銀行の大規模な金融緩和策による期待感から、円安・株高傾向に推移するとともに、企業収益の改善や個人消費の持ち直しがみられ、景気の回復とデフレ状況からの脱却に向けた動きが徐々に表れてまいりました。

百貨店業界におきましては、東京・大阪の店舗を中心に高額商材が好調に推移いたしました。地方都市におきましては、主力の衣料品が前年実績を確保するに至らないなど、依然として厳しい状況が続いております。

こうした状況の中、当社グループにおきましては、安定的に利益を計上できる収益構造を維持・推進するとともに、効率的な百貨店経営を目指し、本年度より「井筒屋グループ 中期3ヵ年経営計画(平成25年度～平成27年度)」を策定し、推進いたしております。

当第2四半期連結累計期間における当社グループの業績につきましては、売上高は42,173百万円(前年同期比99.3%)、営業利益は905百万円(前年同期比60.2%)、経常利益は780百万円(前年同期比57.5%)、四半期純利益は751百万円(前年同期比75.4%)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### 百貨店業

当社グループの主要な事業であります百貨店業におきましては、「お客様第一主義」を基本とし、品揃えの強化を進め、販売サービスの向上をはかるとともに、ライフスタイルや商環境の変化への対応力強化に取り組んでおります。

本店におきましては、本年6月に「世界のワールドウォッチフェア」を開催しご好評をいただくとともに、8月には「健康・趣味」などをコンセプトとした売場構築の皮切りとして「エステティックサロン ソシエ」をオープンいたしました。また、9月には雑貨を中心としたラグジュアリーブランド「トリー・パーチ」ブティックをオープンいたしました。

コレットにおきましては、本年3月に婦人服を中心に品揃えの強化をはかっておりますが、さらに9月にはヤングファミリー層向けに、メンズ・レディスのカジュアルセレクトショップ

「アーバンリサーチ」、ベビー&キッズショップを集積した「ココ ベビー&キッズ」をそれぞれオープンいたしました。

黒崎店におきましては、近隣の施設に八幡西区役所が移転し、店舗周辺の来街者が増加したことから、よりデイリーでリーズナブルな品揃えの強化をおこなうとともに、本年9月にはカジュアルブランド「イッツインターナショナル」をオープンいたしました。

サテライトショップにおきましては、お客様の利便性向上のため、本年5月に苅田ショップの移転拡大オープンに引き続き、9月には北九州市八幡西区に三ヶ森ショップを新規オープンいたしました。

また、山口店におきましては、本年6月に周南ショップをオープンさせ、地域のお客様の需要を取り込み、好調に推移いたしております。

さらに、本年8月にはハウスカードであるウィズカードのポイントと、地元北九州市に本社を置く航空会社、株式会社スターフライヤーのマイレージとの相互交換を開始し、ウィズカードの魅力向上に努めてまいりました。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は42,173百万円（前年同期比99.3%）、営業利益は1,003百万円（前年同期比62.5%）となりました。

#### 友の会事業

友の会事業におきましては、株式会社井筒屋友の会が当社グループの百貨店に対して前払式の商品販売の取次を行っており、外部顧客に対する売上高はありません。営業利益につきましては、21百万円（前年同期比166.3%）となりました。

## (2) 財政状態の分析

### 資産

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ547百万円増加し、67,955百万円となりました。うち、流動資産は12,616百万円、固定資産は55,338百万円であります。固定資産の主な内容は、有形固定資産37,607百万円、無形固定資産305百万円、投資その他の資産17,425百万円であります。

### 負債

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ200百万円減少し、56,953百万円となりました。うち、流動負債は31,285百万円、固定負債は25,667百万円であります。負債の主な内容は、借入金30,569百万円、支払手形及び買掛金7,078百万円、再評価に係る繰延税金負債3,737百万円であります。

### 純資産

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ、747百万円増加し、11,001百万円であります。

## (3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、前第2四半期連結累計期間末に比べ536百万円増加し、6,367百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、1,872百万円の資金収入となりました。(前第2四半期連結累計期間は2,110百万円の資金収入)

これは主として税金等調整前四半期純利益と減価償却費によるものであります。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、177百万円の資金収入となりました。(前第2四半期連結累計期間は583百万円の資金支出)

これは主として有形固定資産の売却によるものであります。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、652百万円の資金支出となりました。(前第2四半期連結累計期間は1,457百万円の資金支出)

これは主として有利子負債の返済によるものであります。

## (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

## (5) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	200,000,000
計	200,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年8月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年10月15日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	114,804,953	114,804,953	東京証券取引所 (市場第一部) 福岡証券取引所	単元株式数は 1,000株で あります。
計	114,804,953	114,804,953		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年6月1日～ 平成25年8月31日		114,804		10,532		11,904

(6) 【大株主の状況】

平成25年8月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
西日本鉄道株式会社	福岡市中央区天神1丁目11-17	10,520,418	9.2
井筒屋共栄持株会	北九州市小倉北区船場町1-1	7,053,000	6.1
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区丸の内1丁目3-3	3,682,937	3.2
株式会社福岡銀行	福岡市中央区天神2丁目13-1	3,349,100	2.9
ザ チェース マンハッタン バ ンク エヌエイ ロンドン エ ス エル オムニバス アカウ ント (常任代理人 株式会社みず ほ銀行)	WOOLGATE HOUSE, COLEMAN STREET LONDON EC2P 2HD, ENGLAND (東京都中央区月島4丁目16-13) 決済 営業部	2,144,000	1.9
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6-1	2,079,000	1.8
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1丁目2-10	1,919,000	1.7
日本マイスタートラスト信託銀 行株式会社(信託口)(注)1	東京都港区浜松町2丁目11-3	1,460,000	1.3
株式会社北九州銀行	北九州市小倉北区堺町1丁目1-10	1,398,477	1.2
あいおいニッセイ同和損害保 険株式会社	東京都渋谷区恵比寿1丁目28番1号	1,103,164	1.0
計		34,709,096	30.2

- (注)1. 日本マイスタートラスト信託銀行株式会社の信託口の所有株式1,460,000数は、信託業務に係る株式数であり  
ます。
2. ブラックロック・ジャパン株式会社から平成25年2月22日付で提出された大量保有報告書の変更報告書によ  
り、平成25年3月25日現在同社とブラックロック・インスティテューショナル・トラスト・カンパニー、エ  
ヌ.エイ.が5,346,000株(保有割合4.7%)共同保有している旨の報告を受けております。しかし、当社とし  
て当第2四半期会計期間末における同社の実質所有株式数の確認ができていないため、上記大株主には含め  
ておりません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 210,000		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 114,256,000	114,256	同上
単元未満株式	普通株式 338,953		同上
発行済株式総数	114,804,953		
総株主の議決権		114,256	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が6,000株(議決権6個)含まれております。  
2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式672株が含まれております。

【自己株式等】

平成25年8月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社井筒屋	北九州市小倉北区船場町1 番1号	210,000		210,000	0.2
計		210,000		210,000	0.2

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成25年6月1日から平成25年8月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年3月1日から平成25年8月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,019	6,417
受取手形及び売掛金	1,807	1,973
有価証券	55	30
商品	3,658	3,390
貯蔵品	23	22
その他	787	782
貸倒引当金	0	0
流動資産合計	11,351	12,616
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	13,663	13,142
土地	24,253	24,083
その他(純額)	355	382
有形固定資産合計	38,272	37,607
無形固定資産	347	305
投資その他の資産		
長期貸付金	11,101	10,982
その他	6,499	6,605
貸倒引当金	164	161
投資その他の資産合計	17,436	17,425
固定資産合計	56,056	55,338
資産合計	67,407	67,955

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年8月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,077	7,078
短期借入金	30,225	11,559
未払法人税等	70	46
前受金	6,908	6,919
その他の引当金	528	485
資産除去債務	4	-
その他	4,728	5,196
流動負債合計	49,544	31,285
固定負債		
長期借入金	790	19,010
再評価に係る繰延税金負債	3,737	3,737
退職給付引当金	1,240	1,237
商品券回収損失引当金	764	774
その他の引当金	8	31
資産除去債務	429	433
負ののれん	181	82
その他	457	361
固定負債合計	7,609	25,667
負債合計	57,153	56,953
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,532	10,532
資本剰余金	11,904	11,904
利益剰余金	18,187	17,436
自己株式	24	26
株主資本合計	4,223	4,973
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	28	26
土地再評価差額金	6,001	6,001
その他の包括利益累計額合計	6,029	6,027
純資産合計	10,253	11,001
負債純資産合計	67,407	67,955

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
売上高	42,462	42,173
売上原価	31,838	31,692
売上総利益	10,624	10,480
販売費及び一般管理費	9,120	9,575
営業利益	1,503	905
営業外収益		
受取利息	122	121
持分法による投資利益	86	90
協賛金収入	14	30
負ののれん償却額	99	99
未回収商品券受入益	131	118
受取賃貸料	169	166
その他	84	85
営業外収益合計	708	712
営業外費用		
支払利息	388	341
売上割引	192	196
商品券回収損失引当金繰入額	95	91
その他	176	206
営業外費用合計	854	837
経常利益	1,358	780
特別利益		
固定資産売却益	-	8
特別利益合計	-	8
特別損失		
固定資産売却損	86	-
固定資産除却損	246	12
投資有価証券評価損	4	4
特別損失合計	337	16
税金等調整前四半期純利益	1,021	772
法人税、住民税及び事業税	24	22
法人税等調整額	0	0
法人税等合計	23	21
少数株主損益調整前四半期純利益	997	751
四半期純利益	997	751

【四半期連結包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	997	751
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4	4
持分法適用会社に対する持分相当額	1	2
その他の包括利益合計	3	2
四半期包括利益	1,000	749
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,000	749
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,021	772
減価償却費	803	759
負ののれん償却額	99	99
貸倒引当金の増減額(は減少)	18	2
賞与引当金の増減額(は減少)	-	4
ポイント金券引当金の増減額(は減少)	62	67
商品券回収損失引当金の増減額(は減少)	8	10
退職給付引当金の増減額(は減少)	5	2
PCB廃棄物処理費用引当金の増減額(は減少)	-	92
受取利息及び受取配当金	124	122
支払利息	388	341
持分法による投資損益(は益)	86	90
固定資産売却損益(は益)	86	8
固定資産除却損	242	12
投資有価証券評価損益(は益)	4	4
売上債権の増減額(は増加)	72	163
たな卸資産の増減額(は増加)	208	268
仕入債務の増減額(は減少)	29	0
未払消費税等の増減額(は減少)	3	72
その他の資産の増減額(は増加)	123	126
その他の負債の増減額(は減少)	84	383
小計	2,382	1,990
利息及び配当金の受取額	129	123
利息の支払額	389	210
法人税等の支払額	13	30
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,110	1,872
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
定期預金の預入による支出	-	50
定期預金の払戻による収入	-	50
有価証券の償還による収入	-	25
有形固定資産の取得による支出	705	183
有形固定資産の売却による収入	33	273
有形固定資産の除却による支出	-	0
無形固定資産の取得による支出	-	10
短期貸付金の純増減額（は増加）	-	0
長期貸付金の回収による収入	119	119
差入保証金の差入による支出	0	61
差入保証金の回収による収入	13	23
資産除去債務の履行による支出	-	7
その他の増減額（は増加）	45	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	583	177
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	-	20,000
長期借入れによる収入	-	20,000
長期借入金の返済による支出	1,264	446
リース債務の返済による支出	87	99
割賦債務の返済による支出	105	105
自己株式の取得による支出	0	1
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,457	652
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	69	1,398
現金及び現金同等物の期首残高	5,761	4,969
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,831	6,367

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

該当事項はありません。

【会計方針の変更等】

当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日)
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)
当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成25年3月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。
なお、これによる当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日)
販売促進費	627百万円	626百万円
宣伝費	455 "	490 "
給与及び手当	2,407 "	2,500 "
賞与引当金繰入額		163 "
賃借料	1,653 "	1,659 "
減価償却費	790 "	750 "
退職給付費用	82 "	73 "
ポイント金券引当金繰入額	195 "	201 "
貸倒引当金繰入額	18 "	

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日)
現金及び預金	5,926百万円	6,417百万円
預入期間が3か月を超える 定期預金	95 "	50 "
現金及び現金同等物	5,831百万円	6,367百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年3月1日至平成24年8月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年3月1日至平成25年8月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成24年3月1日至平成24年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		その他 (注)	合計
	百貨店業	友の会事業		
売上高				
外部顧客への売上高	42,462			42,462
セグメント間の内部売上高 又は振替高		335		335
計	42,462	335		42,798
セグメント利益	1,605	12		1,617

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報サービス事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,617
セグメント間取引消去	114
四半期連結損益計算書の営業利益	1,503

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		その他 (注)	合計
	百貨店業	友の会事業		
売上高				
外部顧客への売上高	42,173			42,173
セグメント間の内部売上高 又は振替高		340		340
計	42,173	340		42,513
セグメント利益	1,003	21		1,024

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報サービス事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,024
セグメント間取引消去	118
四半期連結損益計算書の営業利益	905

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成25年3月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

この変更によるセグメント利益に与える影響は軽微であります。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

前連結会計年度末(平成25年2月28日)

(単位:百万円)

科目	連結貸借対照表計上額	時価	差額	時価の算定方法
長期借入金	1,016	1,039	23	(注)

(注)長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定しております。

なお、1年内返済予定の長期借入金を含めております。

当第2四半期連結会計期間末(平成25年8月31日)

長期借入金が、企業集団の事業の運営において重要なものとなっており、かつ、前連結会計年度の末日に比べて著しい変動が認められます。

(単位:百万円)

科目	四半期連結 貸借対照表計上額	時価	差額	時価の算定方法
長期借入金	20,569	21,488	919	(注)

(注)長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定しております。

なお、1年内返済予定の長期借入金を含めております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
1株当たり四半期純利益金額	8円70銭	6円56銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	997	751
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	997	751
普通株式の期中平均株式数(千株)	114,652	114,598

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年10月11日

株式会社井筒屋  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 東 能 利 生 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 宮 本 義 三 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社井筒屋の平成25年3月1日から平成26年2月28日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成25年6月1日から平成25年8月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年3月1日から平成25年8月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社井筒屋及び連結子会社の平成25年8月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。